

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201585		
法人名	株式会社草薙		
事業所名	草薙グループホーム		
所在地	青森県弘前市城東2丁目2番地6		
自己評価作成日	平成22年10月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aokaigoyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270201585&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

筋力保持の為に毎日のラジオ体操(2回)、軽体操(1回)を行っている。
毎月1回は外出のドライブ、外食会を行い、利用者の誕生日には誕生会を開き利用者、職員みんなで祝いをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員は「助け合って生き生きと、助け合っていつまでも、助け合って暮らしたい」という助け合いをベースとした理念の下、入居者の出来る範囲で1日1つの手伝い、作業をし助け合ながら、安心安全に暮らせるように職員同士が気兼ねなく意見交換をしており、ケアの展開やサービスの質の向上に向けて随時話し合いが行われている。入居者、家族に対しても、職員から積極的に話しかける事で、意見を言いやすい雰囲気を作るように工夫されている。入居者の表情や言葉には活気がみられ、リビングの中でくつろぎながらも会話が弾み、明るい雰囲気に満ちている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念の意味を理解し、サービス場面に反映させている。	認知症のケアや声掛け等も含め申し送りを活用しケアの振り返りや、理念の理解を深める努力の段階である。又、入居者の身体状況だけではなく、入居者個々の背景を知ってもらい、入居者を尊重し具体的なケアの実践に反映されている。	一人ひとりの希望に添い、地域の中で個々が望む生活を支援するという理念を、会議やミーティング等を活用しながら、積極的に掘り下げを行い、職員全員の意識統一を図り、日々の生活の中で具現化される事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、敬老会、近所の保育園にてねぶた祭り等、徐々に地域行事に参加、地域と交流している。	町内会に加入され、民生委員の協力を得て、ねぶた見学や敬老会等に参加し交流されている。	単発的な行事や催し等の関わりだけでなく、普段の暮らしの中で地域の方々が立ち寄りたり遊びに来たりしてもらえるように、事業所としての役割を考え、地域の一員として良好な関係を築く働きかけが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果について公表し、結果を基にして改善策を話し合っている。	2ヶ月に1回定期的に実施されている。運営推進会議の開催にあたり文書を送付し参集をしている。介護保険課や東部包括支援センター職員や民生委員の参加があり、入居者の近況報告や事業所の取り組み内容等を話し合い、サービスの向上に活かされている。	家族や行政等の関係者の参加を働きかけ、入居されている方々の暮らしぶりやニーズを伝え、現在の取り組み内容や課題等も報告し、意見交換ができるように参集をはかる際には議題等も明記するなど工夫し、意見を汲み取り、サービスの向上に活用できるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今のところ、地域の方は運営推進会議に参加するときのみ来ている。その際に現場の実態を伝え、入居者家族と共に課題解決について話し合っている。	事業所が抱えている困難ケースや問題を介護保険係や東部包括支援センターに報告し、情報を共有してアドバイスや意見をもらうなど積極的に働きかけ連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束に関する内部研修に参加しているので、その内容を全職員へ周知し、学ぶ機会を設けている。	マニュアルを作成している。身体拘束についての内部研修を開催し、学ぶ機会を設け周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待の防止に関する内部研修に参加しているので、その内容を全職員へ周知し、学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が成年後見制度に関する講習等参加しているので、その内容を職員へ周知し、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は入居者や家族に方針や取り組みなどについて説明を行い、同意をえている。退去時についても同様。退居先の情報提供を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見や苦情を話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	意見、苦情箱を設置しているが、今のところ活用されたことがない。面会時に意見を言いやすいように職員が積極的に話しかけ、聞き取りに努めている。家族からの意見や提案は申し送り等で話し合いが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、会議を開催し職員の意見交換をしている。	会議や申し送り等を活用し、職員からの気付きや提案等を管理者と意見交換されている。	経営者や管理者が現場職員からの意見や気付き等をしっかり取り入れ一緒に話し合いながら、具体的に改善を図れるような取り組みが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状況や職員の勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より研修会参加の計画を立て、年間2回の参加を計画予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流機会は持たれていない。		

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に、入居者や家族と直接話す機会を持ち、希望や思い、ニーズを把握するように努め、本人が安心して過ごせるように支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があったときには、入居者や家族と直接話す機会を持ち、希望や思い、ニーズを把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の入居者と家族に対し、何が必要かを見極め、対応できることについては柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	否定せずに本人が納得できるようじっくりと話を聞いている。また、それぞれのできることを行うことで職員との支え合う関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こちらから家族へ日々の様子を面会時や電話などで伝えている。家族からもFAXなどお返事いただくことがある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や美容院は希望に添いなじみの所に出かけている方もいる。電話や手紙にて連絡をし関係が途切れないように支援している。	以前から利用している美容院へでかけたり、知人と手紙や電話のやり取りをしている入居者もいる。外出する際は職員が同行、送迎し、知人や友人と継続的に交流が図れるように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の仲の良し悪しなど把握し、よりよい人間関係作りを築けるように配慮している。トラブル発生時には職員が介入することもある。居室で過ごす事を好む方にも、ホールに集まって頂き、軽体操やゲームなどに参加していただくようお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、家族の相談に応じ、これまでの関係を継続するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と会話する機会を増やし、様子観察し本人の思いや希望の把握に努めている。必要に応じて家族からの情報収集を行っている。	センター方式のアセスメントを活用し、本人の思いやどのように暮らしたいか等の把握に努めている。家族の面会時に要望を聞き、安全、安心に暮らせるように検討し支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や個性などについて家族や本人から情報収集し、可能な限り本人の希望を取り入れるよう生活支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や睡眠、排泄など必要に応じて援助し、一日の生活リズムを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には、本人や家族の意見を反映させ、またほぼ全職員で話し合いをし作成している。	日頃の関わりの中で本人や家族の希望や思いが反映されるように聴き取りをしている。遠方の家族には文書送付や電話で確認している。ケース担当者だけでなく、職員全体で意見交換しモニタリングやカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの記録ファイルがあり、その日の様子や身体状況、職員のケアの状況などを記録している。全職員がいつでも見られるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来は定期受診を家族との交流を持っていたために、付き添いでお願いしているが、家族の都合があわない時や急変時には職員が同行したり、医師との連絡調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園行事への参加や、地区の文化祭への作品出品をしたり、文化祭の歌や踊りの見物に出掛ける予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を受診出来るように支援し、定期的に、または体調変化が見られたときなど受診相談することができる。受診結果は、電話などで家族へ伝えている。	入居前のかかりつけ医は、本人、家族の希望を確認し家族からも付き添いの協力を得ながら、継続した受診の支援をされている。又、入居契約時には緊急時に対応できるように説明し、協力医院に切り替えする入居者もある。家族が同行できない時は職員が付き添いし、通院報告や状況の変化を報告されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護職員から、気軽に相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時の情報提供を行い、入院時に安心して過ごせるよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一部入居者に関しては、医師・家族と話し合い、方針を共有しているがそれ以外は特に話し合いをしていない。	一部の入居者に関して、重度化した時や今後のケア方針等について、家族、医師と話し合いがされ、確認しながら取り組んでいる。	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いか等、事業所として対応しうる最大の支援方法を踏まえ、入居者、家族が安心して生活できるように、重度化や終末期に向けた方針、指針の話し合いが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網、緊急時のマニュアル作成し全職員が緊急時に活用実施する体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難訓練を年2回行い、1回は夜間を想定して実施している。緊急連絡網を活用し地域との協力体制を築いている。	年2回、火災を想定し避難訓練を実施している。訓練では、避難通路の確保、初期消火、緊急連絡網を活用し訓練を実施されている。	火災に限らず、災害時の避難誘導は職員だけでは困難である為、近隣住民や商店、消防署等の協力を依頼し、訓練時から出来るだけ参加してもらえるような働きかけが望まれます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方と接するうえでの適切な呼びかけや声掛けをし、入居者のプライバシーに配慮している。個人情報、入居者や面会者の目につく所には置かないようにしている。	申し送り等を活用し、ケアの確認や振り返りがなされ、さりげない言葉掛けで支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発語がうまくできない方及び、もの忘れのある方に関しても、時間を掛けて接するように日々心掛けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの、利用者のその時々状態にあわせて対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の美容院にホームに来てもらったり、馴染みの美容院へでかけたり身だしなみできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態や好みにあわせて工夫されており、入居者と職員と一緒に準備や盛り付け、片付けをしている。朝と夕は職員も一緒に食事している。	入居者は出来る範囲で食事の下準備や盛り付け、後片づけの手伝いを行っている。朝と夕は職員と一緒に食事をし、入居者から何が食べたいか等を聞き取りされ、献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量をチェックし、一人ひとりの状態に応じお粥にしたり、量の配慮や食事環境に気を配るような体制を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、介助が必要な方には支援し、声掛けのみの方は見守りしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握の為、訪室並びに声掛けし気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレ排泄を継続する事で入居者のレベルアップにつながったケースがあり、排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝と午後にラジオ体操や軽体操・ゲーム等を行っている。その他、排便確認により、水分の摂取量や飲食物の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	2～3日に1度の入浴ができるようにしている。入居者の入浴順番好みや入浴方法などを把握しその人にあわせて支援している。入浴を拒否する方に対しては、声掛けの工夫、タイミングなど配慮している。	入浴日の設定はなく、週に3回程入浴できるように希望に沿って支援されている。安心、安全に入浴を楽しめるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを整え、体を動かす機会を設け、心地よい疲労感を持っていただくことで、気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員で薬を管理しており、薬の説明書はファイルいつでも見られるようになっている。毎回入居者の名前を確認し服薬支援している。薬の変更に関しても申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いを主に役割としてやっていただき、お手伝いの出来ない方は個別レクリエーションを実施して気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や美容院への外出はしている。本人の要望に応じて家族の支援の下、外出している。	毎月1回、外食会の他に、職員と一緒に近くのスーパーに買い物に出掛けるなど、日常的に気分転換を図れるように支援されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力量に応じて支援し、預かり金とは別に、小遣い程度は財布に入れ所持している方もいる。買い物時には、力量に応じ支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があったときの電話連絡、年賀状と家族へ出すお便りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ季節感を取り入れるように展示したり工夫をしているが、入居者の異食行為があり現在は実施していない。	共用空間にはソファや小上がりのスペースが設けられており、季節を感じる装飾や行事の際の写真が飾られている。食事の際には音楽が流れ、ゆったりと過ごす事が出来るよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテーブル、畳の小上がりがあり、また廊下にも長椅子を置き、入居者がそれぞれの場所で休まれたり、数人で過ごせるように整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みのあるタンスやソファ、テーブル、写真や人形などが持ち込まれており、過ごしやすい環境となるよう工夫している。	自宅で使用していた家具等の持ち込みがあり、それぞれ個性のある部屋となっている。立ち上がりや起き上がりが困難な方にはベット柵を設置するなどの快適に過ごせる様に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができることは行っている見守りをしている。急かさず、個々のペースにあわせて、必要であればさりげなく手助けしている。		